

令和 3 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1790101099		
法人名	株式会社 ふれあいの里		
事業所名	サンケア東長江		
所在地	金沢市東長江町へ13番地1		
自己評価作成日	令和4年3月4日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社emu
所在地	石川県金沢市窪7丁目364 伏見台ガーデンコート西尾ビル506
訪問調査日	令和4年3月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

企業理念“ひとの「生きる」を照らしたい。”  
 ご入居者様やそのご家族、地域の皆様、ここで働く従業員も、おひとりおひとりの人生がもっと明るく、暖かくなるように。私たちは事業活動を通してひとと社会を照らす太陽になりたいと考えています。  
 私たちサンケア東長江は、自然に囲まれた場所に位置し、窓を開けると近隣の小学校から子供たちの元気な声が聞こえてきます。新型コロナウイルスの影響で外出や活動内容も限定されていますが、工夫しながら皆様に楽しんでいただけるイベント等を企画しています。内科や歯科とも連携し、異常の早期発見や早期治療につなげ、日々皆様の体調管理に留意しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

新型コロナウイルス感染予防対策をしっかりとっており、現在感染は発生していない。  
 予防対策により、外出制限やご家族との面会制限もある中、緩和期間を利用して外出を行ったり、ご家族へ写真を同封したお手紙を作成したり、スタッフが工夫を凝らし、出来る限り利用者、ご家族の要望に応えられるよう対応されている。  
 地域との交流も難しい中、小学生のマラソン大会では沿道にて、走る子ども達を応援した際には、ご利用者も子どもたちも嬉しそうで、出来限りの支援を心掛けている。  
 今年は「記録のスキルアップ」「危機感の向上」を目標と掲げており、事故に対しての原因追究、経過観察、対策など、しっかりと話し合い、分析され、対策されている。また、その内容はスタッフに共有され、改善に取り組まれている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
		↓該当するものに○印			↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念及び行動指針を事業所内に掲示している。また企業理念と行動指針を基軸に各ユニットでの月次目標を掲げ管理者が出席するユニット会議において共有と実践に繋げている。	企業理念と行動指針は事業所内に掲示されている。又、ユニット会議にて各ユニットでの月次目標を掲げ共有し、実践につなげている。現在は、「記録のスキルアップ」と「危機感の向上」を各ユニットにて目標として掲げており、発生事例を端的に捉えるのではなく、原因と途中経過そして結果を分かりやすく記録し、一連の繋がりにして捉えていく事を意識し、取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でもあり地域との繋がりが希薄な状況が継続している。運営推進会議の開催も難しく資料にて施設の様子等お伝えしている。地域の郵便局の活用や地域の小学校との連絡、コロナ禍でも可能な活動には参加する機会を持ち、地域の一員として受け入れていただけるよう交流の場を大切にしている。今年度は小学校のマラソン大会の応援団として参加させていただき、できる限りの繋がりや関わりを実践している。	コロナウイルス感染予防の観点より、感染症対策を徹底した上で可能な地域のイベントは参加を検討し、交流されている。地域の一員として受け入れられるよう、郵便局などの地域資源を活用している。また、小学校のマラソン大会では、沿道にて応援するなど関係性を構築できる機会を持ち、地域交流に取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症の終息の目処が立たず、地域の方が参加いただけるイベントは昨年度同様行えていない。お問い合わせいただいた方へ介護保険制度やグループホームの特徴などについてお答えする程度であり、認知症の方を理解していただく機会が少なくなっているのが現状である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止のため、運営推進会議は資料を各ご担当者に郵送し、質問や提案をいただく形で行っている。コロナ禍における施設生活の様子を、写真を添えたりご家族にはお電話で現在の様子をお伝えするなど工夫している。	コロナウイルス感染予防の観点より、運営推進会議の開催は難しく、資料にて施設の様子等関係各所にお伝えしている。ご家族には施設での生活の様子が分かるようお手紙や報告に写真を添えるなど工夫されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点は市に問い合わせさせていただき、ご指導いただいている。	コロナウイルス感染予防の観点よりワクチン接種なども、市へ相談し、ワクチン接種が円滑に行えるように連携を取り、利用者へ迅速な対応を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上安全のために施錠することはあるが、希望があれば職員と共に戸外へ出ることは可能である。また身体拘束委員会を通じて、3ヶ月に1回勉強会を実施し、職員教育にも取り組んでいる。	職員の意識や価値観が違う為、スピーチロックなどは、ケースに応じて各ユニットにて話し合いを行っている。現在は施設外との接点が少ない事から、環境に変化を与える為にも、定期的に外部研修を積極的に取り入れるなど、身体拘束委員会と連携し、ケアの実践へと繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為が起らないよう、管理者が参加する毎月のユニット会議では、認知症について学ぶ機会を設け、職員同士がユニットにおける出来事やケアを題材にし、考える機会を持てるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加し、制度の理解に努めそれらが必要な入居者様へ活用できるようにしていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに説明し、不明点には丁寧に答え、安心して入居いただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様へは事業所に対する要望や希望など引き出せるような会話を心掛け、ご家族には来所の際や入居者様のご様子についてご連絡させていただきご意見を伺っている。すぐに反映可能なことは早急実践し、時間を要することについては、その旨ご説明し反映できるよう努めている。	利用者やご家族へは常に要望や希望が引き出せるような会話を心掛けている。利用者やご家族からは新型コロナウイルスについての不安が多くあげられており、感染予防への取り組みなどを説明し、理解をして頂きながら、ガラス越しの面会や月ごとのイベントを計画し、不安を少しでも解消できるよう取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、品質会議(幹部会議)やユニット会議を開き、業務に関する意見や提案を出し合える機会を設けている。そこでの変更点や決定事項は職員と共有している。	各ユニットにて責任者が職員の意見や取り組みをまとめており、品質会議やユニット会議にて意見や提案を出し合うことで、運営に関する職員意見を反映させている。変化が少ない環境なので今こそ職員のスキルアップの時の意見を外部研修などで反映し、取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的上司と面談を実施している。また人事評価により、職員一人一人が自己の目標を決め、自己評価、上司評価があり、その評価が昇給や賞与に反映する仕組みになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育・中途入職者教育等事業所内で各委員会主催の研修会を実施している。また、サンケアグループのクレド等で自己啓発を勧めている。今後も個々のスキルの研鑽のために初任者研修、実務者研修などの受講を支援していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内はもちろんのこと、同地域の事業所とも積極的にコミュニケーションをとっていききたい。コロナ禍であり、出入りが難しいが、オンライン等を活用して、ともに介護サービスの質の向上を図っていききたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前アセスメントによる情報等を職員が共有し、入居直後は特に環境の変化による不安定な心情に寄り添い、安心して過ごせるよう支援し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	些細なことも早めに連絡・相談し、安心につながるようにするなどして、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	既に入居を望んでおられることが殆どではあるが、「認知症対応型共同生活介護」というサービス種別がご本人にとって適切であるか、という視点を持ち初回アセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のできる事ややりたい事が続けられるように、一緒に挑戦したり役割や生きがいに繋がるような支援をしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはご本人の日用品などお持ちいただくことや、受診への付き添いなど共にご本人を支える関係が継続できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後、馴染みの人や場所の関係継続は中々難しい現状ではあるが、会話の中で話題にすることや、入居後から新たに他入居者様や職員との馴染みの関係が構築できるよう支援している。	施設や現状の環境に慣れていただけるよう、ユニットごとで話し合いの機会を設けて取り組まれている。入居時に馴染みの物を持ち込んで頂き、大切な物や場所について途切れないように配慮している。また、新たな環境で馴染みの関係が構築できるよう会話やイベントを通して構築できるよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性の把握と、入居者様同士の日頃の関わり合いにも注視しながら、みんなで参加できるレクリエーションの計画等で孤立する方の無いように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了(特養入居・医療機関への入院)時、ご家族へは何時でもご相談をお請けする旨、お伝えしている。		

**III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のこれまでの暮らし、ご本人の思いを把握するように努めている。またご家族と話す機会を設け、ご家族の希望や思いを確認している。ご本人の意向が困難な時には、ご家族と話し合いご本人にとって必要な支援を行っている。	入居時に利用者のこれまでの暮らしや思いや希望を本人やご家族から伺い、馴染みのあるものを持ち込んで頂けるように支援に取り組まれている。困難な場合にはご家族との話し合いを行い、利用者にとって必要な支援を行っている。冷蔵庫・電気毛布等の電化製品については管理を行いながら使用されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネやご家族などから情報を収集し、アセスメントを行い少しでも多くの情報や、複数の視点からご本人の様子や思いを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の一日の過ごし方、心身の状態が理解できるように現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催しプランを作成するにあたり、ご本人の思いやご家族の意向にそって計画している。また、一人ひとりの状態を職員間で情報共有することにより、ご本人の課題に合わせた計画の作成・実施・モニタリングに活かしている。	利用者の担当職員が情報をまとめケアマネジャーがその情報を基に利用者にモニタリングを実施している。その後、担当者会議にて関係職員などと協議されたことが次の計画へ反映されている。担当職員はご家族への手紙を作成し、ご家族の意見も取り入れる工夫をされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録はPCに入力しており、ケース記録、各種チェック表等でモニタリングをし介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス種別にて法令順守の下、柔軟な支援やサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り地域資源との協働に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医と連携を取りながら、適切な医療が受けられるようにしている。必要時はご家族にも報告と承諾を得ながら支援している。	利用者やご家族からの要望により、入居前のかかりつけ医を継続できるよう連携をとり、往診状況等を確認し、ご本人・ご家族に承諾をえて支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員から、入居者様の健康についての相談や報告が適切に行われており、異常時や緊急時には搬送、受診に繋げることができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時は、早急に入院先への情報提供を行い病院関係者との連携に努めている。入院中も、病院関係者と情報交換や相談をし、退院後のスムーズな受け入れができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期における対応を説明しているが、ご本人・ご家族の考え方を尊重し事業所で出来る事を説明しながら支援を行っている。ご家族の要望で入院を希望された場合は、入院の支援を行っている。また、看取りを希望された時には、ご家族・主治医・看護・介護と連携し支援している。	今年度は看取りは行われていないが、状態の変化により病院へ入院等の対応を医師や看護師と連携して支援できる体制を整えている。状態に変化が見られた際にはご家族へ連絡をし、状況をお伝えし、ご家族の思いや希望に対して、支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応を共有し、介護職員と看護職員との連携で応急手当や初期対応が出来るよう備えている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時のマニュアルを活用、緊急連絡網の作成など整備している。緊急時の対応後は事故分析を行い事故原因との是正改善案を会議で話し合い、二度と繰り返さないよう情報の共有を図っている。	緊急時のマニュアルを活用し緊急連絡網も整備されている。事故発生時には事故原因を追及し会議で話し合うなどは是正改善案を決め、共有を行っている。利用者がトイレトペーパーの補充をする際に転倒事故が発生した事で、原因の分析を行い、日々の清掃での備品管理の重要性を各職員が認識し、改善に取り組まれている。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	内科医師の来訪は毎週あり(往診は2週間に1回)、他に必要時歯科医師の診察を受けることができる。総合病院を協力医療機関、特別養護老人ホームをバックアップ機関としている。	総合病院を協力医療機関、特別養護老人ホームをバックアップ機関としている。利用者の状況に応じて本人とご家族との話し合いを行い、病院や特別養護老人ホームの説明を行い希望に沿った支援が出来るように取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤体制は各ユニット1名で2ユニットあり建物内には2名となる。必要に応じて管理者・介護主任との連絡体制や内科医(ホームDr)とも緊急時の連絡体制が構築できている。	緊急事態の連絡体制の構築ができておりマニュアルに沿って対応できるよう周知されている。深夜は看護師が常に電話で対応しており、状況に応じてご家族や医師・管理者への連絡を迅速に行い対応している。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練は実施し全職員が避難方法を学んでおり避難場所は夕日寺小学校となっている。	防災訓練を全職員参加し実施されている。避難方法の周知や避難場所まで徒歩で10～15分程度かかる事を訓練を通して理解し、具体的な対応策を全職員に周知している。	近隣にて土砂崩れ等が発生しており、水害に対する避難方法、避難時備品、避難所へのルートなど実際に訓練することを期待する。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	事業所内での避難経路や消防設備の点検・確認を行っており、緊急連絡網を整備している。	災害時の非常食等の備蓄品の発注を実施した。ミネラルウォーターやレトルトがゆやスープなどの非常時食を献立に基づき3日分の食事ができるように計画を立て体制を整えられている。	非常用備蓄が購入されたことにより、今後、その賞味期限などの管理体制の構築を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を大切にし、人権を考慮した姿勢でケアを行っている。トイレ誘導時のさりげない声掛け、会話の声の大きさにも配慮するなどプライバシーを損ねない対応に努めている。	入浴時やトイレ誘導時の声掛けを利用者本人や周囲の利用者へプライバシーに配慮した声掛けに取り組まれている。入浴時に異性の職員が支援されることに不安を感じる利用者には、会議で話し合い、体制の変更など可能な限り希望に沿った支援に取り組まれている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望が表せるよう心がけ個別にケアを行っている。また、多くの場面で自己決定できるような働きかけを行っている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の個々のペースや生活習慣に合わせた「その人らしい暮らし」を理解し、体調や要望を伺いながら希望に添えるよう支援をしている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型の決定や、着替えの洋服選びを一緒に行うことで、入居者様が自身の身だしなみに関わり、好みやこだわりが出せる機会をつくるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けや、おやつレク等は、入居者様にお声掛けし職員と一緒にやっている。	現在、コロナウイルス感染予防により外出制限があり、毎月ユニットごとに利用者の意見を聞きながら、職員がイベントを考えて、食事を一緒に楽しむことができるよう取り組まれている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの考えられた食材が外部業者より確保できている。食事摂取量、体重の変化、水分バランス等状態に合わせて考慮し支援している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて、毎食後の口腔ケアを行っている。定期的に訪問歯科医にも相談し助言をもらっている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを記録等で把握し、その方にあつたトイレ誘導をしている。また、カンファレンスを行い可能な限りトイレでの排泄が続けられるように考え支援している。	利用者1人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄が続けることができるように支援に取り組まれている。トイレ誘導や夜間でのポータブルトイレの使用など必要に応じて支援方法をユニット会議で話し合いを行い、共有され、支援が行われている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給と、程度な運動を心がけることで自然排便を促すよう努めている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	入浴日は設定してあるが、その方にあつた時間や声掛けで入浴している。入浴日以外でも、希望や諸事情に合わせていつでも入浴は可能である。	入浴日は各利用者によって設定は行っているが、声掛けを行い利用者が楽しむことができるタイミングで入浴できるように取り組まれている。一人ひとりの要望にできる限り対応できるよう、必要な場合は体制の変更などを行い対応されている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣にあつた休憩や安眠ができています。質の良い睡眠が得られるために、昼夜の生活リズムが整えられるよう支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は介護職員が、薬の管理は看護職員が行っている。また、入居者様に処方されている薬の副作用や用法などについては、薬情報を確認し、安全に確実に服薬が行えるよう支援している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書、TVゲーム、園芸、洗濯たみ、ちぎり絵、塗り絵、折り紙、演歌を聴くなど、入居者が其々楽しみを持ち過ごされており、それを継続できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で制限があり、戸外の活動が難しい状況が続いた。緩和時期に開催された地域イベントには参加することができた。ご家族には対面から窓越しの面会にご理解、ご協力いただいた。	コロナウイルス感染予防により外出制限があり、外部での活動が難しい状況が続いている。緩和時期に開催された地域の小学校のマラソンイベントには沿道から応援し、楽しむ事ができた。感染予防の状況に応じてご家族との外出や施設として外出機会を設けていく事が出来るような支援を話し合われている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を使用する機会がなく、必要物品はご家族が用意されたり、引き落としで購入している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、はがきの支援は希望があれば行っている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は温かみのある色調で揃えてあり、トイレ、洗面所は広々とした間取りで車椅子の入居者様でも快適に使用できるよう工夫している。自然に囲まれた中に立地し、窓からの眺めは自然を感じて暮らせるようになっている。	窓からの眺めは自然に囲まれた環境を感じられるようになっている。また、温かみのある色調で統一された家具により居心地の良い空間づくりが行われている。季節ごとに職員と一緒に飾りつけを作成するなど、利用者自身も居心地の良い空間づくりに取り組まれている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、キッチン、ダイニングテーブル、テレビ、ソファ(一人掛け・数人用)が設置しており、入居者様それぞれが自身の居心地の良い場所で過ごせるよう配慮している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみの物や思い出の写真等を持ってきていただき、入居者様に安心感と居心地の良さを体感していただけるよう工夫している。	入居時に利用者やご家族と話し合いを行い、居室には馴染みの物を持ち込んで頂き、ご本人が居心地よく暮らすことが出来る空間となるよう取り組まれている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置により、歩行状態に合わせて車椅子や歩行器等が必要なときに使用できる環境になっている。		